

**【目的】** 現時点で世界1位の長寿国日本と、次いで2位であるオーストラリアの2国について、小学生における日常食の実態を電子調査方法で調査し、食生活の問題点を検討することを目的とした。

**【方法】** 日本の小学校4校、オーストラリアの小学校2校の9歳～12歳の児童283名を対象に、朝食・夕食・おやつについての食事調査（喫食率、摂取食品群、喫食場所、喫食時間帯、共食者）を行った。質問紙を大学のウェブサイト上に載せ、担任の下で回答後、返信してもらう電子調査方式と、日本では一部同じ内容を紙上調査方式で行った。集計はEXCELで、統計分析はSPSSを用いて実施した。

**【結果】** 日本は、朝食・夕食ともに1人当たりの摂取食品の種類がオーストラリアより多かった他、日本では全体として動物性食品群の摂取率が多く、いずれも有意差がみられた。おやつに関しては、日本はおやつを1人で食べる子どもがオーストラリアに比べて多く、「飴・チョコレート類」、「清涼飲料水」、「氷菓子」など、オーストラリアでは「果物・野菜」、「乳製品類」、「スナック菓子」、「洋菓子類」の摂取が多く、それぞれ有意差がみられた。またおやつの喫食時間帯、喫食場所についても違いがみられた。